

さびしいお母さん

小川未明

青空文庫

二時間の図画の時間に、先生が、

「みなさんのお母さんを、描いてごらんなさい。」と、おつしや
いました。

「先生、お母さんのない人は、どうしますか？」と、いったも
のがあります。

「お母さんのない人は、だれですか？」

「武田くんは、お母さんがないので。」

「じゃ、ない人は、お父さんをおかきなさい。」と、先生はお
つしやいました。

みんなは、静かになりました。そして、年ちゃんは、まるまる

とした手に鉛筆を握って、お母さんの、お顔を思い出しているうちに、

「いまごろ、お母さんは、どうしていらつしやるだろうな。」と、ほんとうに考えたのでした。

昨日の夜でした。お父さんが、お出かけなさろうとして、

「まだ、着物はできないのか？」と、お母さんに、おつしやいました。

「もうすこしですけれど、まだできあがっていないのです。」と、お答えなさると、

「なにをぐずぐずしているんだ。」と、お父さんは、お怒りになりました。

そのとき、お母さんは、

「昼前に、お客さまがあつて、お帰りなされると、もうお昼ですし、昼過ぎに仕事をしかけますと、年ちゃんが帰つてきて、そして、遊びに出て、ころんできましたので、お洗濯をしてやりました。つぎに、花子が帰つてきて、お友だちのところへゆくのですから、髪を結つてくれといえますので、髪を結つてやつたりしていますと、もう晩方になりました。晩には、お湯があるので、お湯に入つてからは、じき年ちゃんも眠たがりですから、その前に学校のおさらいをしてやりますと、ほんとうに、お仕事をすめる時間というものがなかつたのでした。今夜は、おそくなつても縫い上げるつもりでいます。」と、お母さんは、おっしゃつてい

ました。そばでこれをきいていた年としちゃんは、もしそれでお父とうさんが、怒おこるなら、お父とうさんがわるいと思おもいましたが、お父とうさんは、だまつていました。

いま、そんなことを考かんえると、お母かあさんが、なんだか、かわいそうになりました。

「あの原はらっぱで、あんなことをして遊あそばなければ、ころびもしなくて、よかつたのだ。」と、年としちゃんは、昨日きのう、材ざい木もくがたくさん積つんである上うえを、吉雄よしおくんや、賢二けんじくんと、駈かけ足あしをして渡わたっているうちに、水みずたまりへ落おちて、着物きものをよごしたことを思おもったのです。

「いまごろ、お母かあさんは、どうしていらつしやるだろうな。」

いつもお仕事しごとをなさるところにすわって、お母さんかあは一人ひとりで、ガラス戸どの内うちから、外そとのお庭にわを見ていらつしやる姿すがたを、年としちやんは、目めに浮うかべたのでした。そして、うぐいすが、きょうも昼ひるま前に飛えんできて、赤あかい実みのなつた、梅うめもどきの木きや、つばきの枝えだにとまつて、虫むしをさがしているのを、お母さんかあは、見みていらしたのです。しかし、そのお母さんかあの顔かおはさびしそうでありました。年としちやんは、図画紙ずがしの上うえへ、さびしいお母さんかあのお顔かおを描かきました。なんだか、そのお母さんかあは、泣ないていらつしやるようです。「こんなの、おかしいなあ。」と、年としちやんは、考かんがえていました。が、そのかたわらへ、「ボクたちが、るすのときの、さびしいお母さんかあのお顔かお」と、書かいて、先せん生せいへ出だしました。

先生せんせいは、それをごらんになって、どうお思いおもいなされるでしょう？ それは、このつぎ、いただいたときでなければわかりません。

年としちゃんは、早くお家うちに帰かえって、お母かあさんのお顔かおを見たいと思おもいました。学がっこう校おが終わると、急いそいでお家うちへ帰かえりました。

「ただいま！」と、いつものごとく、外そとから声こゑをかけました。はたして、お母かあさんは、いつもの場所ばしょにすわっていらつしやいました。

「お母かあさん、さびしくなかつた？」と、年としちゃんは、ききました。「うるさい人ひとが、みんなお留守るすで、静しずかでようございましたよ。」と、お母かあさんはおつしやいました。

「うれしかった？」

「ほほほほほ。」

「うぐいすがきた？」

「きましたよ、きょうは、子うぐいすと、母うぐいすと、二羽き
ましたよ。」

「お母さんは、ボクのことを思っていた？」

「ええ、いまごろ年ちやんは、おやつが食べたいと思っ
ているだろうと思いました。」と、お母さんは、お笑いになりました。

「そんなこと、思うもんか。」と、年ちやんがいました。そし
て、ランドセルを投げ出すと、おやつを握って遊びに出
ました。目にあった、さびしいお母さんの顔は消えて、どこを見ても、

たのしい朗^{ほが}らかなお母^{かあ}さんの顔^{かお}が笑^{わら}っていました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 11」講談社

1977（昭和52）年9月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「ドラネコと烏」岡村商店

1936（昭和11）年12月

初出：「教育・国語教育」

1936（昭和11）年2月

※表題は底本では、「さびしいお母《かあ》さん」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2016年6月10日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

さびしいお母さん

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>